

岐阜県池田町人口ビジョン

平成 27 年 10 月

岐阜県池田町

目次

1. 人口減少時代への突入

2. なぜ人口減少がおきているか

3. 人口変動要因の詳細分析1 ～自然増減について～

①出生率

②婚姻率

4. 人口変動要因の詳細分析2 ～社会増減について～

①年齢別

②地域別

5. 池田町が目指す姿 ～2060年に人口20,000人の活気溢れる町～

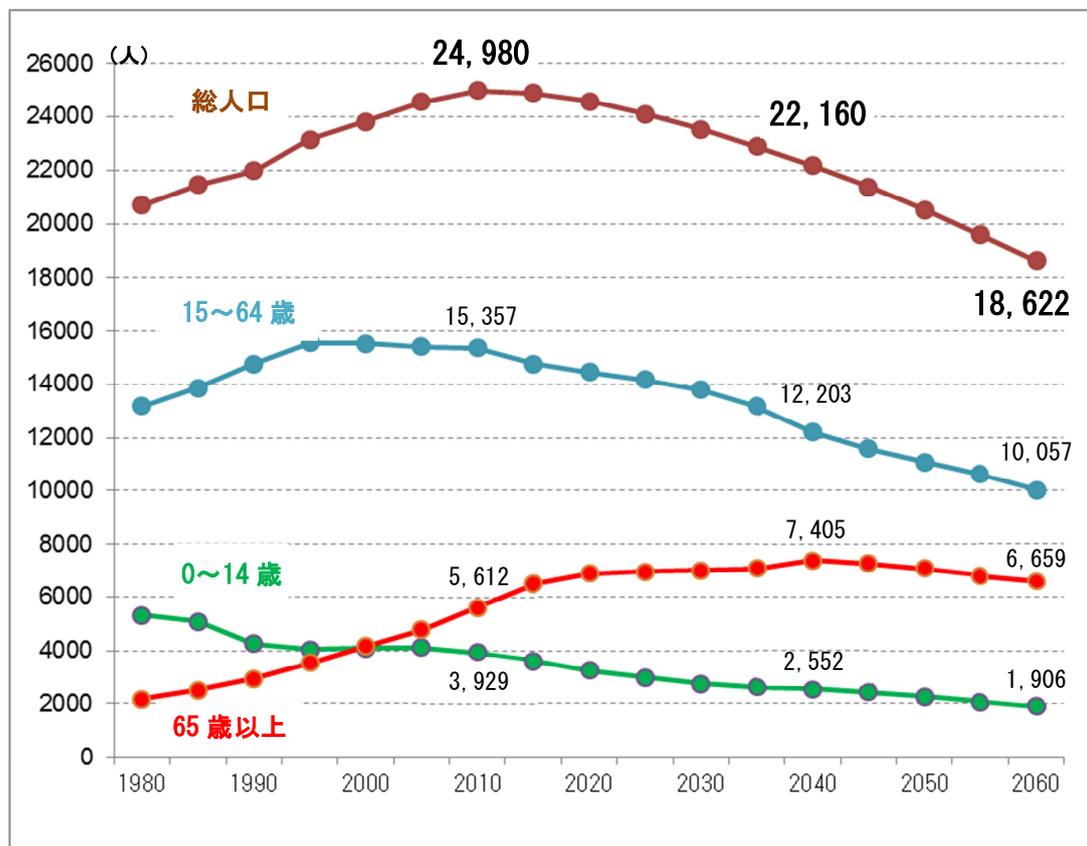
1. 人口減少時代への突入

池田町の人口は、2010 年をピークに減少傾向に転じました。このまま何も対策を行わなかった場合、2040 年には 22,160 人、2060 年に 18,622 人まで減少し、やがて、町に人がいなくなることが予想されます。

このことは、仮に出生数・死亡数が今後一定で推移した場合、日本の総人口が、2100年には約5,200万人（現在の人口の約40%）、2500年には約44万人（現在の人口の約0.3%）となることから裏付けられます。

年齢別にみると、老年人口（65歳以上）は今後も増加が続く一方、年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）は減少に歯止めがかかりません。2060年には、2010年と比較して、年少人口が約半分、生産年齢人口が約2/3になることが予想されます。

グラフ1 池田町の総人口、年齢3区分別人口



出典：2010年までは、総務省「国勢調査」。2015～2040年は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）「日本の地域別将来推計人口」。2045～2060年は、内閣府作成。各年10月1日現在。

※2015年以降の社人研、内閣府の推計では、以下のとおり仮定が設定されている。

出生について：合計特殊出生率 1.49～1.51

死亡について：2005→2010年における生残率が将来も続く

移動について：2005～2010年の純移動率が、2015～2020年までに0.5倍に縮小し、その後はその値が続く

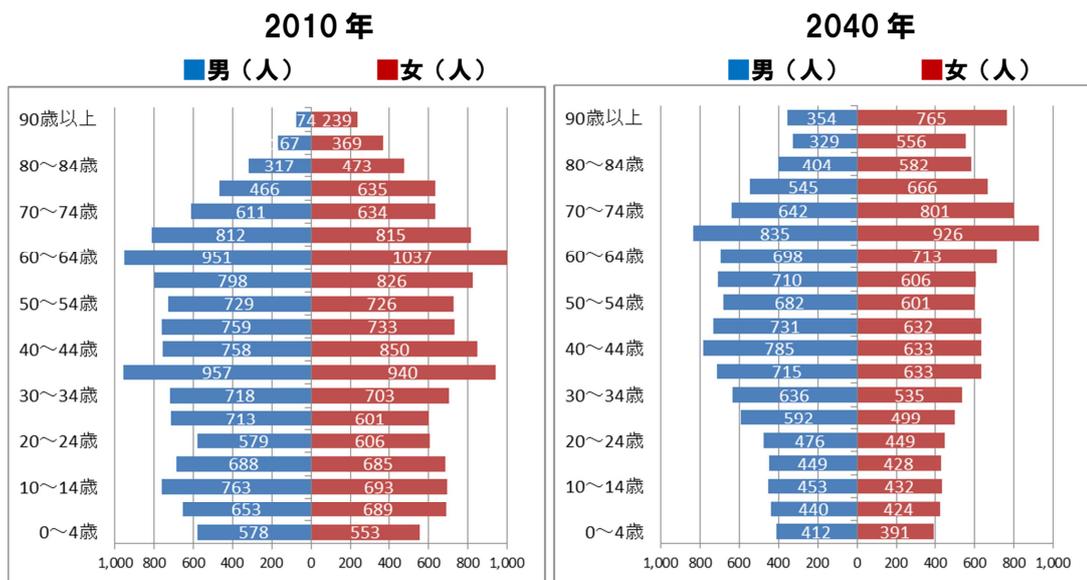
グラフ2は、池田町の人口ピラミッドです。2010年では、つぼ型の形をしており、老年人口が増加傾向にあり、年少人口が減少傾向にあります。2040年になると、老年人口が最も多く、若くなるにつれ人口が減少していく、逆富士山型になることが予想されます。

年齢構成のバランスが悪くなると、1人の高齢者を支える生産年齢人口が減ります。これは、将来、医療・介護費の確保、年金制度の維持等で生産年齢人口の負担が増すことを意味します。

また、10～14歳の年齢層に注目すると、2010年の1,456人から2040年には885人に減少します。これは、池田中学校の学級数が1学年8クラスから5クラスになることを意味します。

このまま人口減少・少子高齢化が進むと、子や孫の時代には、養老鉄道が利用客減により廃線となり、池田高校や池田中学校が廃校となり、学校のない町から若い世帯が離れ、やがては子どもの声が聞こえない限界集落となる可能性があります。このような未来を子や孫に残さないため、まさに今、人口減少に向き合う必要があります。

グラフ2 池田町の人口ピラミッド



出典：2010年は、総務省「国勢調査」。2040年は、社人研「日本の地域別将来推計人口」

2. なぜ人口減少がおきているのか

なぜ、このような急激な人口減少がおきているのかを考えるためには、人口変動要因を分析する必要があります。人口が変動する要因は、①自然増減（出生・死亡）、②社会増減（転入・転出）の2つがあります。従って、人口減少に歯止めをかけるには、表1にある方法が有効となります。これらはどれも重要ですが、限られた財源を有効活用するためには、池田町における人口減少の内訳を分析し、特に影響が大きい要因への対策をとることが大切です。

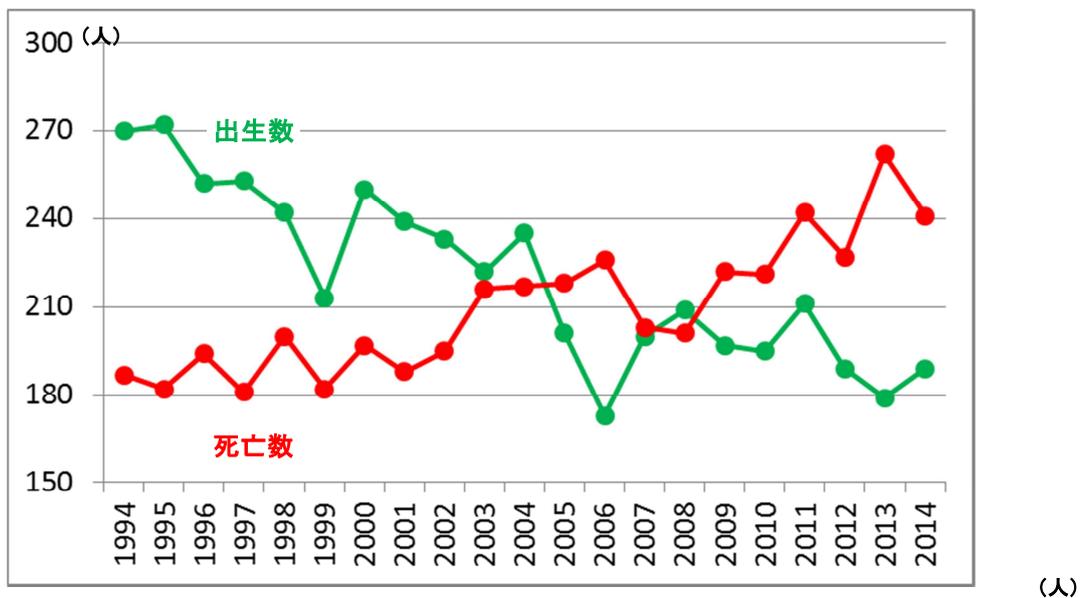
出生数の増加	既婚者を対象とし、出産子育ての希望を叶える。 独身者を対象とし、結婚の希望を叶える。
死亡数の減少	高齢者の健康寿命を延ばす。 30代以下の不慮の事故（交通事故、病死、自殺）を減らす。
転出の抑制	町内の人を対象とし、定住促進する。
転入の促進	町外の人を対象とし、移住促進する。

表1 人口減少に歯止めをかける方策

①自然増減について

グラフ3は、過去20年間の池田町の自然増減を表しています。一貫して、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向が続いており、2005年以降、死亡数が出生数を上回っていることがわかります。2009～2012年は-30人前後でしたが、2013年は-83人、2014年は-52人と、自然減が拡大しています（表2）。

グラフ3 池田町の出生・死亡数



集計年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
出生数	201	173	200	209	197	195	211	189	179	189
死亡数	218	226	203	201	222	221	242	227	262	241
自然増減	-17	-53	-3	8	-25	-26	-31	-38	-83	-52

表2 過去10年間の出生・死亡数

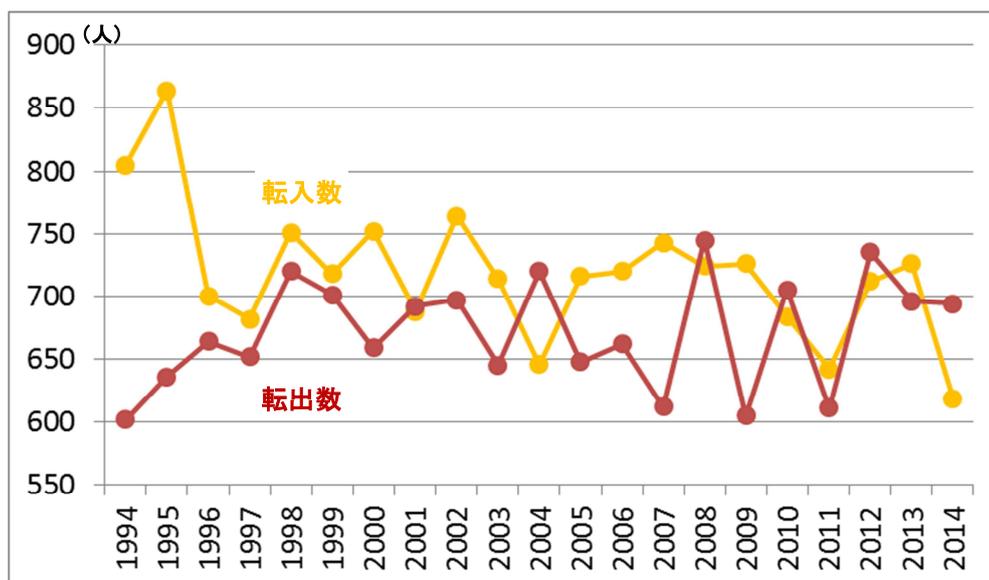
出典：1995～2014年：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

(1995～2012年は年度集計、2013・2014年は年集計)

②社会増減について

グラフ4は、過去20年間の池田町の世界増減を表しています。年によって差がありますが、2007年までは、一部の年を除き、転入数が転出数を上回る年が続いていました。しかしながら、2008年以降、転入数が700人を下回り、転出数が700人前後となる年が多くなり、社会減となる頻度が高くなっています。

グラフ4 池田町の転入・転出数



集計年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
転入数	716	720	743	724	726	684	642	712	726	619
転出数	648	662	612	745	605	705	611	735	696	694
社会増減	68	58	131	-21	121	-21	31	-23	30	-75

表3 過去10年間の転入・転出数

出典：1995～2014年：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

(1995～2012年は年度集計、2013・2014年は年集計)

総合的に見ると、池田町は、社会減より自然減の方が、人口減少に対する影響が大きいことがわかります。そこで、まずは、自然減に注目してみます。

3. 人口変動要因の詳細分析1 自然増減について

自然減の要因は、出生数の減少と死亡数の増加です。池田町における死亡率は全国平均より低い傾向があることから、ここでは出生数の減少について考えます。

出生数が減少する要因は、出生率（既婚女性が子どもを産まない）と婚姻率（独身女性が結婚しない）の2つが考えられます。

①出生率

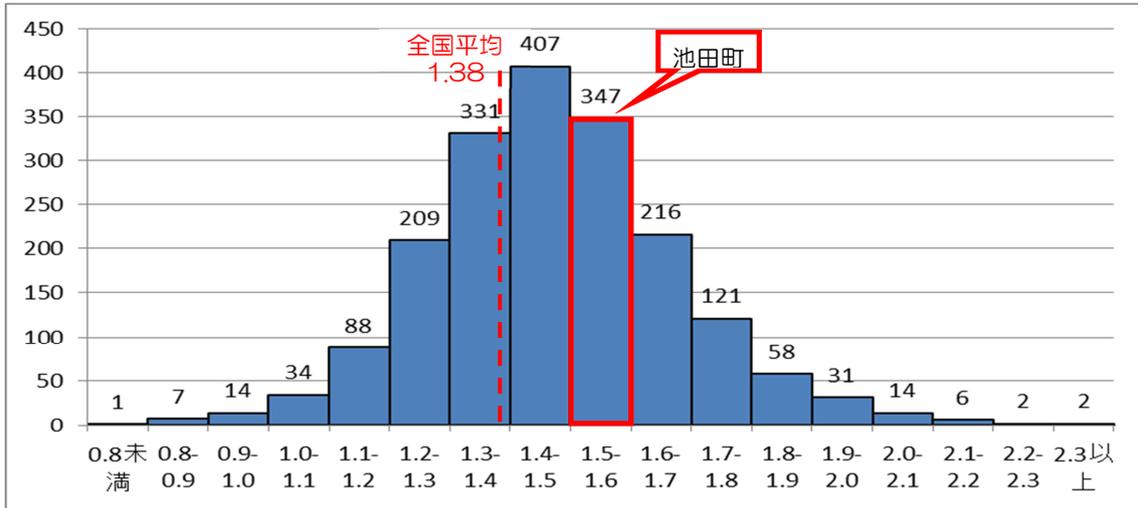
表4は、池田町の合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に産む子どもの数）及び年齢別の出生率（人口1,000人に対して、子どもを産む女性の数）を表しています。2008～2012年では、池田町の合計特殊出生率は1.53と全国・岐阜県平均を上回っています（グラフ5）。従って、池田町では結婚した女性が産む子どもの数は、比較的多いということがわかります。これは子育て中の夫婦の近くに両親が住んでおり、子育てを助けてもらえやすいことが要因として考えられます。

ただし、2013年は、池田町の合計特殊出生率は1.40と全国平均及び岐阜県平均を下回っているため、今後も注意が必要です。

	合計特殊 出生率	母の年齢階級別出生率（女性人口千対）						
		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全 国	1.38	4.8	36.0	87.0	95.1	45.2	8.1	0.2
岐阜県	1.49	3.9	37.4	103.0	105.1	43.2	6.2	0.1
池田町	1.53	—	38.0	115.4	107.7	39.7	4.6	—

表4 合計特殊出生率・年齢階級別出生率

グラフ5 市区町村別にみた合計特殊出生率の分布状況（2008～2012年）

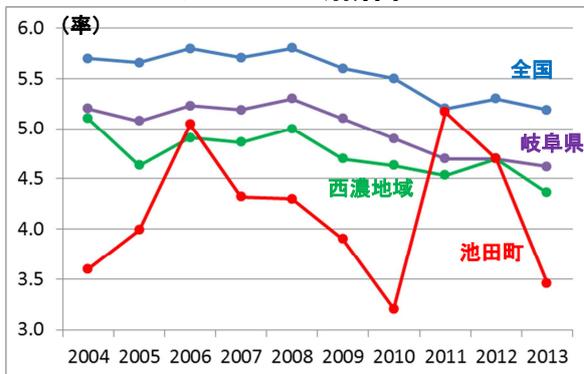


出典：厚生労働省「平成20年～平成24年人口動態保健所・市区町村別統計」

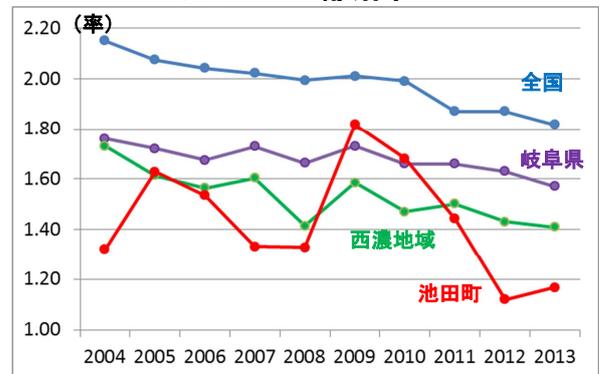
②婚姻率

婚姻率及び離婚率について考えます。グラフ6は婚姻率（人口1,000人に対して、結婚した人数）、グラフ7は離婚率（人口1,000人に対して、離婚した人数）を表しています。ここから、過去10年間、池田町では婚姻率・離婚率ともに、全国、岐阜県、及び西濃地域と比較して低い年が多いことが分かります。これは、結婚する男女が少なく、一方で、一度結婚したら離婚する方も少ないということが予想されます。

グラフ6 婚姻率



グラフ7 離婚率



出典：岐阜県「西濃地域の公衆衛生2014」

以上より、池田町においては、独身者を対象として、結婚の希望を叶える施策を実施することが、出生数の増加に向けた重要なポイントです。

4. 人口変動要因の詳細分析2 社会増減について

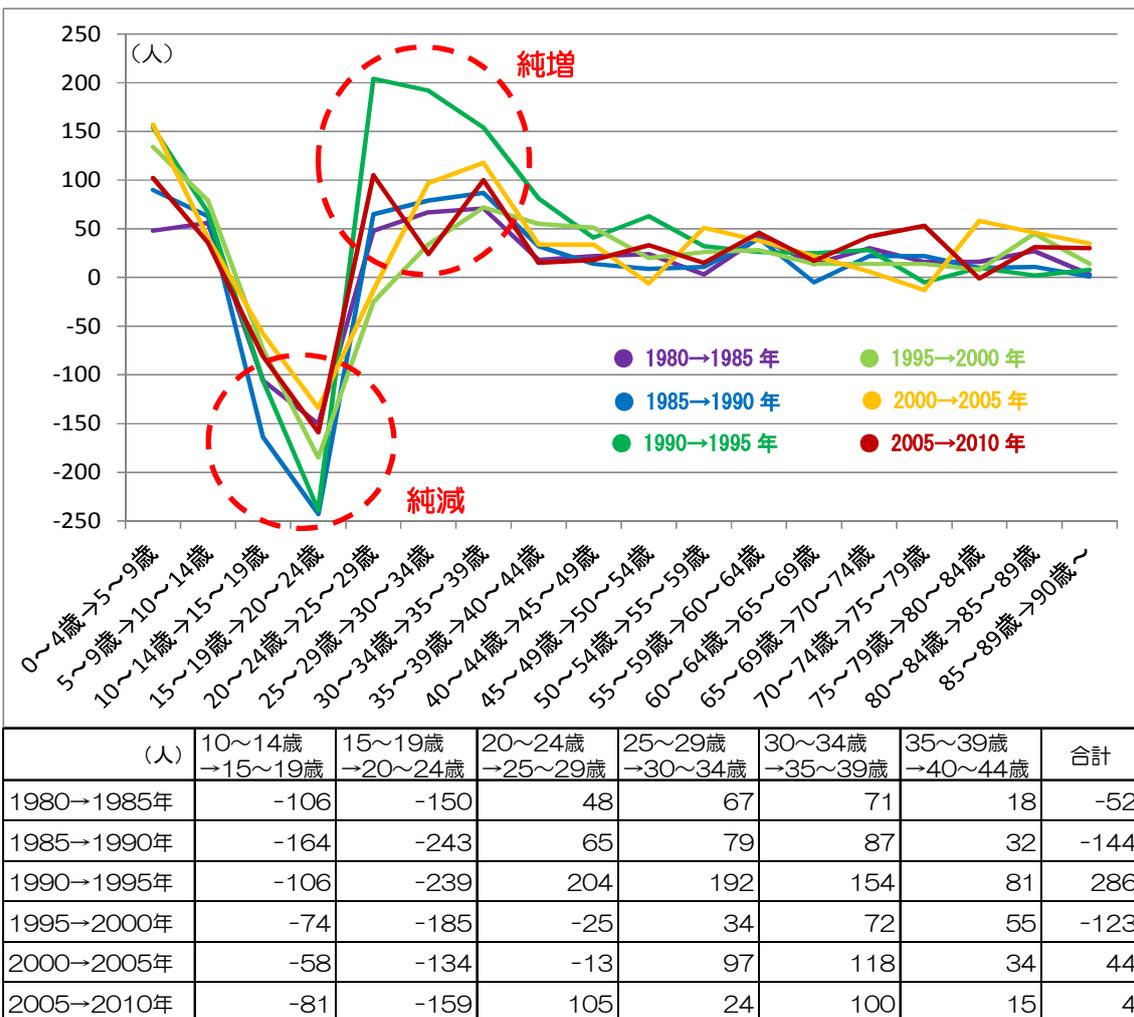
2008年以降、社会減となる年が多くなってきました。池田町の社会増減を考えるため、社会増減の内訳を年齢別・地域別に詳しく見ていきます。

①年齢別

グラフ8は、過去30年間の年齢別の社会増減数を表したものです。グラフ8からは、10代で大規模な純減が発生していることが分かります。これは、主に、町外への大学進学に伴うものと予想されます。一方、20代、30代では純増となっています。これは、就職、結婚、出産、住宅購入の時に、池田町に転入しているためと予想されます。

過去30年間の10代から30代の社会増減からは、20代、30代の社会増減数にバラツキが見られ、池田町の社会増減数に大きな影響を及ぼしていることが分かります。そこで、町外への進学を阻むのではなく、少しでも多くの20代、30代が池田町に戻ってくる、または移住するような施策を実施することが重要です。

グラフ8 池田町における年齢別の社会増減数（1980年～2010年）

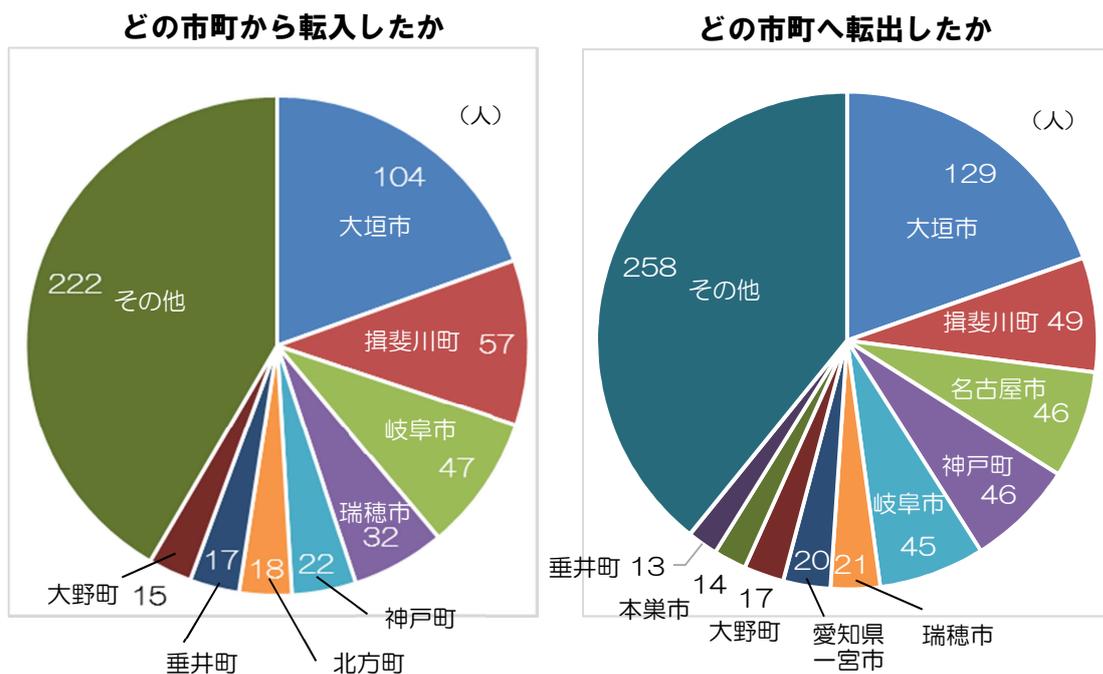


②地域別

グラフ9は、2014年において、どの市町から池田町へ転入したか、池田町からどの市町へ転出したかを表したものです。

転入数内訳を見ると、上位8市町は、全て近隣の西濃や中濃地域であることが分かります。また、転出数内訳を見ると、大垣市、名古屋市、岐阜市、瑞穂市、愛知県一宮市といった近隣の都市圏（JR沿線市）か、揖斐川町、神戸町、大野町、垂井町といった隣接町であることが分かります。

グラフ9 池田町における地域別の社会増減数（2014年）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

ここまでのまとめ

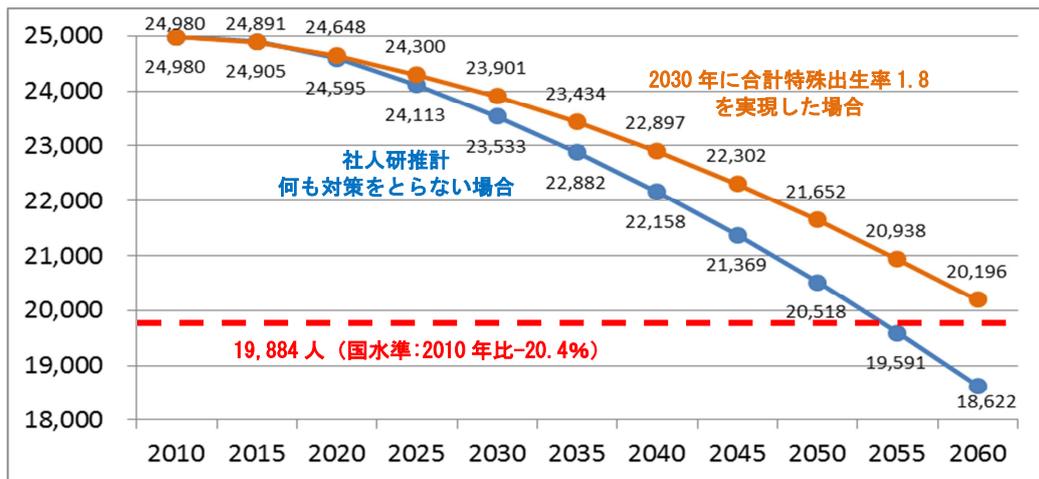
- 池田町の総人口は、2010年をピークに減少傾向に転じた。
- 現状のまま何も対策を講じない場合、2060年には18,622人となる。
- 池田町の人口減少に対する影響度は、社会増減より自然増減の方が大きい。
- 自然増減については、合計特殊出生率は全国平均より高い傾向にあるが、婚姻率は全国平均より低い傾向にある。
- 従って、独身者の結婚の希望を叶え、婚姻率の増加につなげる必要がある。
- 社会増減については、大学進学の際での転出数が多く、その転出先は、主に大垣市、岐阜市、名古屋市である。
- 大学進学に伴い転出した者が、20代30代の就職・結婚・出産・家購入のタイミングで町内に戻ってくるような対策を講じる必要がある。

5. 池田町が目指す姿 ～2060年に人口20,000人の活気溢れる町～

人口減少は、池田町に限らず、日本全国共通の問題です。日本の人口は、このまま何も対策をとらない場合、2060年に8,674万人（2010年比-30.8%）になる見込みです。国は、合計特殊出生率を2030年に1.8程度、2040年に2.07程度を実現することで、2060年に1億194万人（2010年比-20.4%）を維持することを目指しています。

池田町においても、人口の減少幅を、国と同様の約-20%でとどめ、2060年に人口20,000人（2010年比-19.9%）の町を目指します。

グラフ10 池田町の総人口の長期的な見通し



2060年に人口20,000人を実現するため、2つの目標を掲げます。

目標1 2030年に合計特殊出生率1.80を実現

2008年～2012年の合計特殊出生率は1.53であり、これを2030年までに1.80まで上げることを目指します。これを出生数に置き換えると、2030年の出生数が221名となります（表5）。また、出生数を上げるために、2030年までに、婚姻率5.1%（年間で婚姻される方119名）を目指します。

※婚姻率目標値 5.1% = 2008～2012年の婚姻率平均値 4.3% × (1.80/1.53)

	年齢階級別 女子人口(人) A	母の年齢階級別 出生数(人) B	母の年齢階級別 出生率 B/A	母の年齢階級別 出生率×5 (B/A)×5
15～19歳(人)	527	0	0.00000	0.00000
20～24歳(人)	541	24	0.04469	0.22344
25～29歳(人)	632	86	0.13571	0.67855
30～34歳(人)	623	79	0.12666	0.63328
35～39歳(人)	629	29	0.04669	0.23344
40～44歳(人)	602	3	0.00541	0.02705
45～49歳(人)	608	0	0.00000	0.00000
合計	4162	221	—	1.80

※母の年齢階級別出生率は2008～2012年の値（表4）をベースに仮定

表5 2030年における女子人口・出生数・合計特殊出生率

合計特殊
出生率

目標2 2015→2020年以降、10～30代の社会増減数±0人を維持

総人口の長期的な見通し（グラフ10）は、2005～2010年における社会増減が今後も続くという仮定によって、推計されています。2011年以降、2010年以前と比較して、社会減が進行しつつあります。

※2005～2010年の社会増減平均 +56人（うち10～30代は+4人）

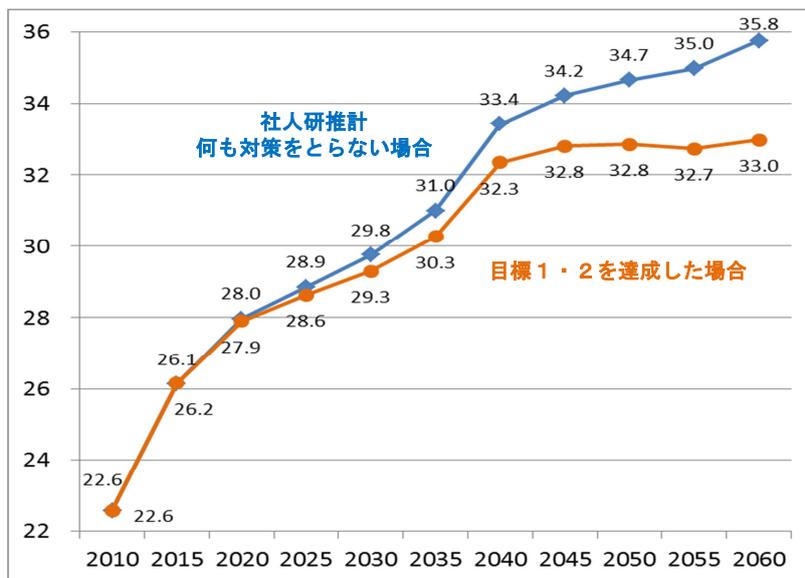
2011～2014年の社会増減平均 -9人

そこで、2016年以降、2005～2010年と同水準となる「10～30代の社会増減数±0人」を維持することを目指します。

目標1を実現するためには、若者の出会いの場をつくるなど、若い世代の結婚の希望を叶える対策をすることが重要です。目標2を実現するためには、①中高生に対して地元企業と連携した体験・キャリア教育を実施し、地元での就職を促す、②多世代交流や、古くからの住民と転入者との交流の機会の創出を通じて、池田町への愛着心を高める、③町内資源の活用・PRを通じて、交流人口（ファン）を増やすことが重要です。

目標1、2を達成することで、人口減少、少子高齢化にストップをかけ、子や孫の時代にも活気ある池田町の実現を目指します（グラフ11、表6）。

グラフ11 池田町の高齢化率の長期的な見通し



		2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研推計	年少人口 (0歳～14歳)	3,929	3,618	3,263	2,983	2,752	2,627	2,551	2,438	2,271	2,076	1,906
	生産年齢人口 (15歳～64歳)	15,415	14,778	14,453	14,171	13,779	13,160	12,200	11,617	11,134	10,661	10,057
	老年人口 (65歳以上)	5,636	6,510	6,879	6,959	7,002	7,095	7,407	7,315	7,113	6,853	6,659
目標1・2を 実現した 場合	年少人口 (0歳～14歳)	3,929	3,604	3,316	3,170	3,134	3,125	3,108	3,013	2,869	2,695	2,552
	生産年齢人口 (15歳～64歳)	15,415	14,778	14,453	14,171	13,765	13,214	12,382	11,974	11,671	11,389	10,985
	老年人口 (65歳以上)	5,636	6,510	6,879	6,959	7,002	7,095	7,407	7,315	7,113	6,853	6,659

表6 池田町の年齢別人口推移の長期的な見通し